

## 水の大切さと怖さ

水は私たちが生きていくなかで、とても大切です。水がなければ、農作物も育たないし、動植物も生きていきません。それらを食べている私たち人間もそうです。今、毎日の生活のなかで何不自由なく水を使えるのはとても幸せなことです。しかし、水不足で苦しんでいる人がたくさんいるということを「水」について調べて知りました。

現在、世界中では七人に一人、十億人もの人々が栄養失調で苦しんでいます。しかも命を落としている人もたくさんいます。その原因としては、自然災害・戦争・貧しさ・そして水不足が関連しています。私たちが住んでいる日本では、水不足はあまり考えられないことです。水道水が汚れていて飲めない地域でも、スーパーで買えば簡単に手に入ります。しかし、貧しい国の人々にとって

黒滝村立黒滝中学校 三年

山口典佳

はそう簡単には手に入りません。たとえば、水があつたとしても汚れていて、それが原因で病気になることだってありえるのです。けれど水不足は、世界中の人々が協力をすれば、少しでも和らげるのではないかと思えます。日本は技術力がすごく優れているので、海の水をろ過して、きれいな水を作ることでもできるような気が私はします。それで、貧しい人々を助けられたらとても嬉しいのです。しかし自然災害はそうではありません。いつ起こり、どんな被害が出るか分からないのが自然災害です。これは貧しい人々の国だけでなく、日本も同じです。二〇一一年の東日本大震災でも「津波」という想像していないことが起こりました。そして私が住んでいる村でも、台風十二号により多くの被害が出ました。多雨で川が氾濫し、土砂で流れてきた

岩や木々が民家の近くまで押し寄せてきました。死者は出ませんでした。家が全壊し、橋なども流されてしまいました。私はこの時、初めて「水」の怖さということを知りました。

台風十二号があつてから一年以上経った今でも、大きな土砂崩れが起こった所では復旧作業が行われています。それは、ダム建設です。私がついてくる中学校の全校生徒でそのダムの建設現場に見学に行きました。台風があつてから一度も行ったことがなかったのに、台風による被害の大きさを改めて知り、驚きました。山の頂から崩れ落ち、今にも落ちてきそうな大きな岩が姿を現していました。その岩などがこれから落ちてきても大丈夫なように、ダムを作っているそうです。今まで私はダムといえど、ただ水を貯めておくものだと思つていました。けれど、水とともに流れてきた土砂を流さないという、大きな役割も持っているというのを知ることができました。この復旧作業現場の見学という貴重な体験をして感じたことがあります。それは、多くの人々のおかげで今、安全に暮らせてい

るのだと言うことです。  
生きていくなかで必要なのは「水」だけ。その「水」にも怖さがあるということ。強く実感しました。水という資源を大切にすることも念頭におきながら、生活していきたいと思ひました。







